

委託事業実施内容報告書
平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】
実施内容報告書

団体名：公益財団法人神戸YWCA

1. 事業の概要

事業名称	日本人対象「やさしい日本語」普及活動
事業の目的	昨今、日本社会は日本語を母語としない外国籍や日本国籍の人たちが共に暮らす、多文化共生社会になってきている。多文化共生社会では、様々な言語、文化背景、宗教を持った人が共に安心して暮らせる社会づくりが必要となる。そのためには、異文化受容、異文化理解を含んだコミュニケーションのための「ことば」が必要である。 日本語を母語としない外国籍や日本国籍の人たちが日本社会になかなか溶け込めない要因として、日本語が不自由なことが挙げられる。また、日本社会に溶け込むためには、単に日本語という言語の問題だけでなく、日本文化を受容し、理解しようとする姿勢も必要とされる。が、そうした意識がなかなか持てない人々もいる。特に、神戸のような散住地域の場合は、散住地域であるからこそ交流が必要であるが、現状は普段の生活の中で、日本人と交流することが少ないため、生活に必要な情報も得にくい。また、地域住民の側にも日常生活の中で積極的に触れ合おうとする意識がない人々も散見され、意識はしていないとも、よそよそしい態度になったり、自分に影響が及ばなければ、それでいいと、無関心な態度を装う人々もあり、このような状況では、いざ問題が起きた場合にうまくいかないだろう。 上に述べたような状況に対し、地域の支援団体(生活相談、医療相談等)、行政の取り組み(生活支援、自立支援等)や日本語のボランティア教室は、それぞれの専門性を活かし、支援に力を注いでいる。ただ、現状として、これらの活動が互いに関係を持ちながら、効果的な支援を行っているとは言いがたい。今求められるのは、これら同じ目的を持った各機関が、互いに協力し、問題を共有し、多文化共生社会の実現のために力を一つにすることである。公益財団法人である神戸YWCAは、地域にあって弱者の側に立った活動を目指し、多文化共生社会実現のために、過去3年間本事業に携わり、協働をキーワードにした各団体との連携作りから始め、徐々にその連携を生かした活動の実施をメインとした取り組みの実績を作ってきた。ただ、このような活動は往々にして、期間限定、またはある一つのイベントのみの「点」的なものになりがちである。 今年度も昨年度に引き続き、活動が期間限定、または「点」的なものにならないよう、継続できるものにし、また、より日常的なレベルに持っていくことを考え、以下のことに取り組んだ。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	・神戸市は、外国人の散住地域であり、日本人住民との付き合いがお互いの生活には不可欠である。しかし、互いの存在に無知、無関心であったり、あるいは互いへの不安を抱えつつ暮らしたりしている状況がある。この状況が生まれる要因として、お互いがコミュニケーションを行い、理解を深めるための「ことば」がないということが挙げられる。こうした状況に必要なのは、外国人生活者側にとっては、日本語の基礎学習で身につけた日本語であり、日本人側にとっては異文化受容・異文化理解の意識を持つことと「やさしい日本語」のスキルの実践である。 ・日本語を母語としない外国人生活者(日本国籍を含む)が、短期間で効果的に日本語が学べる日本語教室が不足している点も挙げられる。来日間もない外国人はもちろん、滞り期間が長い、正式に日本語を学んだことのない人々が、集中的にプロの日本語教師から日本語の基礎を学ぶことや、日本文化への理解を深める機会が必要である。 ・日本人が外国人生活者を理解するためのきっかけが少ない。行政が行う様々な交流会には、関心のない地域住民は出かけない。自分の地域で、同じ地域に住んでいる外国人との交流こそが、日本人を巻き込むには必要である。
本事業の対象とする空白地域の状況	
事業内容の概要	① 運営委員会の構成と運営：様々な立場から外国人生活者支援を行っている機関・団体・個人がメンバーとなり、各自が抱えている課題と取組の成果を共有、協議する。そして、将来的、長期的支援の目標を達成するために必要かつ具体的な取組みについて方針を立てる。 ② 中核委員会：それぞれ専門性を持つ団体・個人が会議を持ち、運営委員会建てられた方針に沿って協議し、取組を実施する。 ③ 取組1：地域住民、および行政職員、教育関係者等に向けた、異文化受容、異文化理解と「やさしい日本語」の普及活動。 ④ 取組2：外国人生活者に向けた、日本事情理解と日本語教室の実施。 ⑤ 取組3：イベントの実施。取組1,2で身につけたそれぞれのコミュニケーションスキルを活かして、行政、地域との連携の下、共生に向けた交流の機会を作り発展させ、協働作業を長期的に継続するものにする。
事業の実施期間	平成28年4月～平成29年3月(12か月間)

2. 事業の実施体制

(1)運営委員会

【運営委員】

1	斎藤明子	神戸女学院大学
2	水野マリ子	神戸大学
3	福井武司	海外産業人材育成校/関西学院大学
4	櫻井かおり	神戸YWCA学院
5	岡本和久	神戸市中央区 保健福祉部保護課
6	飛田 雄一	神戸学生青年センター
7	もりき かずみ	アジア女性自立プロジェクト/関西学院大学
8	原田雅子	神戸YWCA



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成28年5月11日(水) 17:00～19:00	2時間	神戸YWCA会館	福井武司、櫻井かおり、斎藤明子、水野マリ子、もりきかずみ、村西俊季、岡本和久	新運営委員の紹介／前年度までの活動紹介／今年度の方針
2	平成28年9月12日(水) 15:00～17:00	2時間		斎藤明子、櫻井かおり、飛田雄一、水野マリ子、村西俊季、もりきかずみ (陪席：原田雅子)	今年度の9月までの活動の振り返り／今後の事業に関する助言、アドバイス
3	平成29年2月6日(月) 15:00～17:00	2時間		福井武司、斎藤明子、櫻井かおり、水野マリ子、村西俊季、もりきかずみ (陪席：原田雅子)	今年度の全体的な振り返り／今後の事業に関する助言、アドバイス

(2)地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	兵庫県内(主に神戸市内)の日本語が不自由な人々に対する日本語教育及び生活支援について、日本語教育専門家、行政、地域、他NPO団体等、実際に生活支援を行っている機関、団体との連携体制ができ、実績を築きつつあるので、引き続きその継続を目指す。 「やさしい日本語」の普及に当たり、学院周辺の自治会組織、社会福祉協議会、地域で活動するNGO、行政(区役所)との連携により、つながった地域住民に対し講座を実施する。また、「やさしい日本語」の普及活動を行うため、地方自治団体に赴き、行政、職員対象の講座を実施し、より連携を深める。 また、以上の組織や機関の協力の下、「やさしい日本語」をスキルとして交流・実生活に役立てる機会を作る。 過去3年同様、日本人側外国人側双方が共同作業を行う形で実績を積み重ね、行政各位、地域NGO、地域自治会がそれぞれの働きをリンクさせつつ、様々な地域にこのような活動を普及させていく。
------	--

(3)中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	・福井武司…過去3年本プログラムをコーディネートした実績から、全体の企画、実行等すべてのコーディネートを行う。 ・櫻井かおり…昨年、本プログラムをコーディネートした実績から、全体の企画、実行等すべてのコーディネートを行う。 ・小川佐由理…日本語教師の経験から、共生のため必要となるプログラムを考え実施する。また、諸機関との連携、広報を担当する。 ・小林麻紀子…日本語教師の経験から、共生のため必要となるプログラムを考え実施する。また、諸機関との連携、広報を担当する。 ・斎藤明子…日本語教師の経験から、共生のため必要となるプログラムを考え実施する。 ・水野マリ子…長年の研究で地域の日本語に関して考察してきた実績から、本プログラムを広く包括した方向性のアドバイスをし、計画・実行に関わる。 ・森永宏子…中核メンバー会議出席。中央区社会福祉協議会で長らく地域活性化プログラムに携わった実績から諸機関の連携をリードし企画実行に関わる。 ・全業玉…中核メンバー会議出席。地域活性化活動を長く実績から、地域住民と行政、神戸YWCAをつなぐ役割をする。また、イベント実行に関わる。 ・馬場 一郎…中核メンバー会議出席。地域でのNGO活動の実績から、日本人と外国人が地域で共生するためのアドバイスをし、計画実行に関わる。 ・村西俊季…中核メンバー会議出席。地域でのNGO活動の実績から、日本人と外国人が地域で共生するためのアドバイスをし、計画実行に関わる。
----------	---

3. 各取組の報告

＜取組1＞										
取組1	取組の名称		日本人対象「やさしい日本語」普及活動							
	取組の目標		地域住民、行政、諸機関の日本人を対象に、異文化受容、異文化理解とともに、外国人に対してコミュニケーションが取りやすい日本語の使い方を伝え、普及させる講座を行う。講座において、外国人との実際のコミュニケーションの機会を作る。 実施においては、各機関、団体との連携・共同作業を通じて講座を実現する。 また、行政の職員が外国人に「やさしい日本語」で対応できるよう、行政との連携において、講座を実施する。							
	取組の内容		外国人生活者には、地域の日本社会にとけこみ、ともに生活するために、日本語の基礎的な理解と運用に加えて、日本人とのコミュニケーションに必要な日本語の力が求められる。そして、受け入れる日本人社会の側は、外国人生活者とのコミュニケーションをはかるための、外国人に理解されやすい日本語の使用を意識することが大切である。また、言葉だけではなく、外国人が日本で生活していることの背景や、また多文化理解の試みなどにも必要になっている。以上の方針のもとに「やさしい日本語」講座を実施した。 今年度はこれまでの地域のNGO、行政機関で行ってきた講座に加え、神戸YWCAの近隣にある大学や、取組3で行った「民族衣装フェスティバル」においても講座を行った。受講者の属性についても、これまでの一般の地域住民や日本語ボランティアなどにとどまらず、子ども多文化共生サポーター、小中学校の教諭、大学の教職員、高校生など大きく幅が広がった。この属性の広がりに伴い、様々な工夫を行った。講座の時間はこれまでの2時間から、1時間半、45分、35分というように、各講座の目的、主旨に合わせてバリエーションを持たせた。また、「やさしい日本語」の一般化に伴い、下にも書いているワークショップの回数も増やした。 また、これまでは講座を文化庁のプログラムの取組1として実施してきたが、今年度は過年度の取組1の講座を知った他団体（NGO神戸外国人支援ネット、岡山国際交流協会、和歌山県国際交流協会）から講座実施の要請を受けた。このような講座は外部機関の主催となるため、当プログラムの回数には数えられないが、外部機関主催の講座の回数が増えたということは、これまでの神戸YWCAの普及活動が認められてきているということであり、神戸YWCAが「やさしい日本語」の普及に貢献してきたことを意味するものだと考える。 講座の内容は、まず異文化を、私たちはどう受容し、理解すべきかという意識の変換から入り、次に普段使っている日本語をどのようにコントロールすれば、外国人に理解されやすい「やさしい日本語」になるかという切り口で進めた。後半には実際に取組2で日本語を学んだ外国人を招き、講座前半で学んだ「やさしい日本語」を実際に外国人に使ってみようというワークショップ形式で行った。また、大学における講座では、どのような日本語を使えば留学生にとってわかりやすい日本語になるかについても時間を取った。アジア女性自立プロジェクトにおける講座では、メールマガジンの日本語を「やさしい日本語」に書き換える指導も行った。 今年度は、より多くの日本人に「やさしい日本語」を知ってもらうため、講座の動画をWeb上にアップするという新たな試みも行った。不特定多数の人たちに見てもらおうと、「やさしい日本語」という存在を知らない一般の人たちが視聴し、関心を抱き、今後の「やさしい日本語」の普及に役立てばよいと考える。またその動画はDVD化し、運営委員会のメンバーに配布した。意見を聞き、来年度に活かしたいと考えている。 「やさしい日本語」の考え方だけを知ってもらう知識伝達型の講座ではなく、講座で学んだ「やさしい日本語」を実際に使う機会を含む受講者参加型の神戸YWCAの講座は、とてもインパクトがあり、「やさしい日本語」の普及に役立っていると考えられる。今後、今年参加者が多いとは言えなかった一般の人たちをどのように講座に巻き込むのか、また今年広がりを見せた受講者の属性をどのように広げていくのが来年度以降の課題であろう。							
	空白地域を含む場合、空白地域での活動									
	取組による体制整備		運営委員、中核メンバーのネットワークを生かし、行政関係者やこれまで外国人と接触がなかった日本人に講座への参加してもらう。過去2年の活動を通じてできた行政（区役所、社会福祉協議会、地域自治会）との連携を中心に行う。「やさしい日本語」を地域の人々や行政担当者が使うことで、日本語を学びつつある外国人生活者の生活の自立をサポートすることができる。「やさしい日本語」講座の実施により、外国人生活者と地域住民との出会いの場を設定し、共生に至る関係づくりを進める。							
	取組による日本語能力の向上		「やさしい日本語」の考え方とノウハウを地域の人々や行政担当者に習得してもらう。そうすることで、日本語を習得しつつある外国人生活者の生活の自立をサポートすることができる。							
	参加対象者		地域住民、日本語ボランティア、教員、多文化共生サポーターなど。 生活のための基礎日本語コース等で日本語を学んだ外国人				参加者数 （内 外国人数）		127人 （ワークショップ協力者6人／多文化共生サポーター6人）	
	広報及び募集方法		各機関・団体に依頼、地域の自治会、地域のNGOにチラシ配布を依頼する。							
	開催時間数		総時間 6時間45分		2.0時間×2回 / 1.5時間 × 1回 / 0.5時間×1回 / 0.75時間×1回					
	主な連携・協働先		地域自治会組織、地方自治体、行政等の窓口業務担当者など。							
	開催場所		兵庫県教育委員会、兵庫県国際交流協会、三本市国際交流協会、神戸山手大学、アジア女性プロジェクト(AWEP)、神戸YWCA分室							
参加者の出身・国別内訳 （人数）		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル	
		6	0	0	0	0	0	0	0	
		日本人（127人）、インドネシア（1人）								
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容			指導者名	補助者名
1	平成28年6月11日 （土）13：30～15：30	2.0	兵庫県教育委員会多文化共生センター	21	「やさしい日本語の考え方」とワークショップ	異文化受容と異文化理解。 普段使っている日本語を「やさしい日本語」に変えるためのポイントを伝える。 実際に外国人に「やさしい日本語」を使ってみるワークショップ。			福井武司	
2	平成28年8月29日 （月）17：00～18：30	1.5	三本市国際交流協会	26	「やさしい日本語の考え方」とワークショップ	異文化受容と異文化理解。 普段使っている日本語を「やさしい日本語」に変えるためのポイントを伝える。 実際に外国人に「やさしい日本語」を使ってみるワークショップ。			水野マリ子	
3	平成28年12月17日 （土）13：30～14：00	0.5	神戸YWCA分室	20	「やさしい日本語の考え方」と練習問題	異文化受容と異文化理解。 普段使っている日本語を「やさしい日本語」に変えるためのポイントを伝える。			福井武司	
4	平成29年2月16日 （木）16：15～17：00	0.75	兵庫県国際交流協会	39	「やさしい日本語の考え方」と練習問題	異文化受容と異文化理解。 普段使っている日本語を「やさしい日本語」に変えるためのポイントを伝える。			福井武司	斎藤明子
5	平成29年3月1日 （水）13：15～15：15	2.0	神戸山手大学	22	「やさしい日本語の考え方」とワークショップ	普段使っている日本語を「やさしい日本語」に変えるためのポイントを伝える。 実際に外国人に「やさしい日本語」を使ってみるワークショップ。 留学生に対する「やさしい日本語」の考え方のシェア。			福井武司	
6	平成29年3月8日 （木）13：00～14：30	1.5	アジア女性自立プロジェクト	5	「やさしい日本語の考え方」とワークショップ	アジア女性自立プロジェクト（AWEP）から配信されるメールマガジンを「やさしい日本語」に書き換える指導を行う。			水野マリ子	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 2016年6月11日】

芦屋市にある兵庫県教育委員会多文化共生センターで実施した。参加者は21名。一般の日本人をはじめ、小中学校の教諭、また、小中学校に派遣され、外国につながるのある児童のサポートを行う子ども多文化共生サポーターの方も参加。異文化とは何か、「やさしい日本語」の特徴とルールを部ループワークで話し合ったり、発表してもらったりした。共生サポーターは外国籍で、日本人が使う難しい日本語を実体験している人たちのので、活発な議論がなされた。後半のワークショップでは取組2の日本語教室で学習した外国人生活者が参加、前半の講義部分で学習した「やさしい日本語」を使ってコミュニケーションをはかってもらった。「やさしい日本語」を今後も生かしていきたいというコメントや、続編を望む声が多く上がっていた。



○取組事例②

【第5回 2017年3月1日】

神戸山手大学にて2時間枠の講座を行った。対象者は大学教員と事務職員の計22名。前半は「やさしい日本語」の定義と、難しい日本語をやさしい日本語に変換していく練習、そして、実際に外国人ゲストに「やさしい日本語」を使ってコミュニケーションを取った。後半は、大学の授業における「やさしい日本語」について参加者とともに考えた。とかく知識を一方的に伝えるのが仕事の大学教員にとって、学生とやり取りをしながら授業を進める方法や、キーワードとなる語彙を理解するための予備授業の話は新鮮に感じられた様子だった。



【第6回 2017年3月8日】

アジア女性自立プロジェクト(AWEP)で1.5時間枠の講座を実施した。AWEPがフィリピン、ラテンアメリカ系の外国人を対象に配信している「あんしん つうしん」というメールマガジンを「やさしい日本語」に変換する際の指導を行った。「やさしい日本語」の基本的な観点を確認した後、これまでに配信されたデータを使い、ワークショップを行った。一般的な受益者を対象とする講座と異なり、受益者あつてのやさしい日本語であり、対象ごとの「やさしい日本語」のあり方を考えさせられる貴重な講座となった。



(2) 目標の達成状況・成果

今年度は受講者、内容や設定時間など、講座のバリエーションが広がった。受講者は、子ども多文化共生サポーター、小中学校、大学教員、高校生など、これまでの「やさしい日本語」に興味を持つ一般地域住民や日本語ボランティア以外にも幅が広がった。内容は、大学における「やさしい日本語」の考え方の活用方法、地域団体が発行するメールマガジンの「やさしい日本語」を使った書き換えなど、これまでになかった内容を盛り込むことができた。幅が広がったにも関わらず、迅速に対応ができた。設定時間に関しては、講座を行うそれぞれの機関の要望に応じて、1.5時間、45分、30分など、臨機応変に対応した。時間が短くなっても、受講生の意識の変化が見られた。また、講座への受講者の参加態度も積極的で、受講者自ら準備をかけて出たり、質問が数多く出るなど関心の高まりが感じられた。また、これまでの2時間枠の講座では、引き続き講座前半は異文化受容、異文化理解と「やさしい日本語」の考え方を学ぶ座学中心の講座内容、後半は実際に「やさしい日本語」を外国人に使うというワークショップ形式のスタイルで行ったが、受講者にとって実際に外国人と話すことで、「やさしい日本語」がコミュニケーションツールとして役立つことが実感できる機会となり、今後の実生活でも使われるであろう感触を得た。

また、過年度はこちらから講座の実施を持ちかけ、取組1として行ってきたが、今年度は既往の取組1の講座内容を知った団体(NGO外国人救援ネット、岡山県国際交流協会、和歌山県国際交流協会)から講座実施の要請を受けることが増えた。このような講座は外部機関の主催で他の助成金、県等の予算での実施となるため、当プログラムの回数には数えられないが、外部機関主催の講座の回数が増えたということは、これまでの神戸YWCAの普及活動が認められてきているということであり、神戸YWCAが「やさしい日本語」の普及に貢献してきたことを意味するものだと考える。外部機関が主催の講座では受講者に行政の職員が含まれているものがあつた。その結果として今年度は行政対象の講座はなかった。しかし、来年度は警察の窓口や子育て支援を行う団体など、現在交渉途上のものもある。

(3) 今後の改善点について

「やさしい日本語」の考え方が普及しつつあることは上に述べた通りで、それに伴い今年度はニーズも多様化してきていることが実感できた。来年度以降もニーズが広がるであろうことが予想できる。そのニーズにしっかり応えられるよう講座の内容、講座時間などにバリエーションを持たせていきたい。また、受講者の属性も広がりを見せているが、課題として「やさしい日本語」の考え方を全く知らない、または必要でないと考えている一般地域住民の参加者を増やすということが挙げられる。こうした人たちは参加を促してもなかなか腰が重く、会場に足を運んでくれない。どのようにこうした人たちを巻き込んでいくかという点は今後の課題であろう。

今年度は動画のパイロット版を作成したが、今後、多様なニーズに応えるべく、いつでも読み返せるような「やさしい日本語」のリーフレットも作ってきたい。

＜取組2＞												
取組2	取組の名称		生活のための基礎日本語クラス									
	取組の目標		日本語が不自由な外国人（日本語国籍含む）が抱える課題を踏まえ、基礎的な日本語を身に付けるため、またの日本の文化、習慣を知るための基礎日本語クラスを実施する。									
	取組の内容		・短期間に集中して基礎的な日本語が身に付けられるよう、市販の教科書は使わず、神戸YWCA独自のテキストを用いる。 ・授業の内容は普段の生活において必要度の高い文法項目から優先して作成、実施する。 ・正式なクラスにおいて日本語を学習したことのない外国人はカジュアルな日本語を話すことが多く、日本人とコミュニケーションを取る際に、誤解を招くことがある。そうしたことが起こらないよう、丁寧に正しい日本語の話し方の修得を目指す。 ・運用力をつけるための日本語文法の構造理解を目指す。 ・コミュニケーション力をつけるための会話中心の授業を行い、その中に発音指導も含む。 ・ひらがな、カタカナ、簡単な漢字の読み書きの習得。漢字も文法項目同様、生活に必要な漢字を優先して指導する。 ・日本の文化と習慣を取り入れた会話の練習を多く取り入れる。 ・できるだけ多くの外国人に受講機会を提供することを考え、二期（それぞれ4週間）に分けて実施する。									
	空白地域を含む場合、空白地域での活動		□									
	取組による体制整備		生活に役立つ基礎的な日本語教育に加え、日本文化と習慣を紹介することで、生活する日本社会と地域についての理解を深める。									
	取組による日本語能力の向上		基礎的な日本語教育を受ける機会が乏しい外国人生活者（日本国籍を含む）に対する集中的かつ効果的な日本語教室の実施。生活に必要な基礎日本語を学ぶことにより、日本語学習のモチベーション維持と向上を図り、日本社会で自立した生活を営むための自信をつける。									
	参加対象者		来日間もない外国人、長期滞在者及び生活者で、来日してから正式な日本語教育を受けていない16歳以上の日本語が不自由な外国人生活者（日本国籍含む）。					参加者数 （内 外国人数）		22人 （21人）		
	広報及び募集方法		阪神間の各市役所、区役所、日本語ボランティア教室、外国人生活者支援団体、個人支援者等に広報の協力を要請し、幅広く募集する。また、神戸YWCAホームページ、Facebook等に掲載する。									
	開催時間数		総時間 75 時間（空白地域時間）		3時間×12回（1期） ／ 3時間×11回（2期） ／0.75時間×8回（1期 フォロークラス）							
	主な連携・協働先		神戸市各区役所生活保護課、地域ボランティア教室、地域NGO団体、ハローワーク他									
開催場所		神戸YWCA会館										
参加者の出身・国別内訳（人数）		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン		インドネシア	タイ		ブラジル	
		2	1	0	0	4			0		1	
		ルワンダ（1人）、シリア（2人）、セルビア（1人）、日本（1人）、カナダ（1人）、ペルー（1人）、パングラディシュ（1人）、コロンビア（1人）、アメリカ（2人）、台湾（1人）、ニュージーランド（1人）、モルドバ（1人）、										
実施内容												
I 期												
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容					指導者名	補助者名
1	平成28年5月30日（月） 9：30～13：00 （30分休憩）	3	神戸YWCA会館	14	自己紹介	・自己紹介 ～にすんでいます。～からきました。 家族は～人です。主人は～人です。 息子は～さいです。 ～は～です/じゃありません ～も/ 何人 ・あ～さ行					福井武司	
2	平成28年5月31日（火） 9：30～13：00 （30分休憩）	3	神戸YWCA会館	15	指示語 時間を使った表現 時制	・こそあ（もの／場所） ・なん/どこ ・時間 何時 ・から まで です ・きょう/きのう/あした/曜日/何曜日 ・た～は行+ん					櫻井かおり	
3	平成28年6月1日（水） 9：30～13：00 （30分休憩）	3	神戸YWCA会館	13	往來の動詞文	・行きます／何時に 学校日本 ・来ました-帰ります ・いつ／ 乗り物 で どうやって ・ま～を					後藤範子	
4	平成28年6月6日（月） 9：30～13：00 （30分休憩）	3	神戸YWCA会館	15	他動詞文	・復習クイズ ・他動詞 （食べます、飲みます、買います、見ます、勉強します）どこで、誰と ・促音／助詞					福井武司	
5	平成28年6月7日（火） 9：30～13：00 （30分休憩）	3	神戸YWCA会館	15	形容詞文	・形容詞 高い／安い／熱い／おいしい／おもしろい／難しい ・ほしいです ・長音					櫻井かおり	
6	平成28年6月8日（水） 9：30～13：00 （30分休憩）	3	神戸YWCA会館	15	形容詞文	・～たいです ・会話の復習 ・拗音・拗長音					後藤範子	
7	平成28年6月13日（月） 9：30～13：00 （30分休憩）	3	神戸YWCA会館	14	指示詞 買いものの会話	・復習クイズ ・このそのあの ・いくらですか／大きい数字 ・ひらがな総合練習					福井武司	
8	平成28年6月14日（火） 9：30～13：00 （30分休憩）	3	神戸YWCA会館	13	～は～が 構文	・好きです／わかります／あります／どんな ・ア～サ行+ん					櫻井かおり	
9	平成28年6月15日（水） 9：30～13：00 （30分休憩）	3	神戸YWCA会館	14	授受表現	・あげます／もらいます ・タ～ハ行					後藤範子	

10	平成28年6月20日 (月) 9:30～13:00 (30分休憩)	3	神戸 YWCA 会館	14	名詞文・形容詞文の過去	・復習クイズ ・形容詞名詞過去 ・マ～ヲ行	福井武司	
11	平成28年6月21日 (火) 9:30～13:00 (30分休憩)	3	神戸 YWCA 会館	15	誘う・断る 場面会話 動詞のグループ分け	・誘う・断る A: いっしょに～ませんか B: ～ましょう／すみませんちよつと。。。 ・動詞グループ分け ・カタカナ長音	櫻井かおり	
12	平成28年6月22日 (水) 9:30～13:00 (30分休憩)	3	神戸 YWCA 会館	15	依頼・指示の構文	・～てください ・て形	後藤範子	

I 期 フォローアップクラス(補講)

1	平成28年6月6日 (月) 13:15～14:00	0.75	神戸 YWCA 会館	4	他動詞文 疑問詞	・他動詞 (食べます、飲みます) ・疑問詞 どこで、誰と		小川佐由理
2	平成28年6月7日 (火) 13:15～14:00	0.75	神戸 YWCA 会館	4	前日の復習 形容詞文	・他動詞復習 ・形容詞 高い／安い／熱い／おいしい／おもしろい／難しい		小川佐由理
3	平成28年6月8日 (水) 13:15～14:00	0.75	神戸 YWCA 会館	4	形容詞文	・他動詞復習 ・～たいです		小林麻紀子
4	平成28年6月13日 (月) 13:15～14:00	0.75	神戸 YWCA 会館	4	買いものの会話	・大きい数字 ・宿題のサポート(会話)		小川佐由理
5	平成28年6月14日 (火) 13:15～14:00	0.75	神戸 YWCA 会館	3	ひらがな ～は～が 構文	・ひらがなのフォロー ・すきです／わかります		小川佐由理
6	平成28年6月15日 (水) 13:15～14:00	0.75	神戸 YWCA 会館	4	授受表現	・あげます／もらいます		小林麻紀子
7	平成28年6月20日 (月) 13:15～14:00	0.75	神戸 YWCA 会館	4	名詞文・形容詞文の過去	・形容詞名詞過去 ・宿題チェック		小川佐由理
8	平成28年6月21日 (火) 13:15～14:00	0.75	神戸 YWCA 会館	4	誘う・断る 場面会話	・誘う・断る A: いっしょに～ませんか B: ～ましょう／すみませんちよつと。。。 ・宿題のサポート(会話)		小川佐由理

II 期

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成28年7月4日 (月) 9:30～13:00 (30分休憩)	3	神戸 YWCA 会館	13	自己紹介 依頼・指示の構文 動作の順序	・自己紹介(趣味は) ～からきました／～に住んでいます／家族は～人です。 ～てください グループ分け⇒て形 ～て、～て ・ひらがな・カタカナ総合練習 (文レベル)	福井武司	
2	平成28年7月5日 (火) 9:30～13:00 (30分休憩)	3	神戸 YWCA 会館	15	経験を述べる 行動の例示	・～たことがあります ・～たりたり ・～た形 ・ひらがな・カタカナ総合練習 (文レベル)	櫻井かおり	
3	平成28年7月6日 (水) 9:30～13:00 (30分休憩)	3	神戸 YWCA 会館	11	許可を求める 禁止の表現	・～てもいいですか ・～ないでください ・～ない形 ・ひらがな・カタカナ総合練習 (文レベル)	小川佐由理	
4	平成28年7月11日 (月) 9:30～13:00 (30分休憩)	3	神戸 YWCA 会館	14	義務の表現	・復習クイズ ・～なければなりません ・～ない形 ・ひらがな・カタカナ総合練習 (文レベル)	福井武司	
5	平成28年7月12日 (火) 9:30～13:00 (30分休憩)	3	神戸 YWCA 会館	13	趣味について話す 動作の順序表現	・趣味は～ことです ・～前に～ ・辞書形 ・ひらがな・カタカナ総合練習 (文レベル)	櫻井かおり	
6	平成28年7月13日 (水) 9:30～13:00 (30分休憩)	3	神戸 YWCA 会館	16	家族、友だちとの会話 所在文	・食べる？食べない？(動詞文・非過去) ・～が～に あります／います ・助数詞(～つ、～人他) ・ひらがな・カタカナ総合練習 (文レベル)	後藤範子	
7	平成28年7月19日 (火) 9:30～13:00 (30分休憩)	3	神戸 YWCA 会館	16	家族、友だちとの会話 感想を述べる	・食べた？食べなかった？(動詞文・過去) ・形容詞の過去形復習 ・どうですか／どうでしたか ・漢字(買い物で使う漢字)	櫻井かおり	
8	平成28年7月20日 (水) 9:30～13:00 (30分休憩)	3	神戸 YWCA 会館	14	家族、友だちとの会話 変化の表現	・元気？元気じゃない ・～くなります／～になります ・ひらがな・カタカナ総合練習 (文レベル) ・漢字(駅で見かける漢字)	後藤範子	
9	平成28年7月25日 (月) 9:30～13:00 (30分休憩)	3	神戸 YWCA 会館	17	仮定の表現	・～たら ・～ても ・漢字(病院の漢字)	福井武司	
10	平成28年7月26日 (火) 9:30～13:00 (30分休憩)	3	神戸 YWCA 会館	17	原因・理由の表現 アドバイス 未完了の表現	・～ので～ ・～たほうがいいです／～ないほうがいいです ・まだ～ていません ・漢字(病院の漢字)	櫻井かおり	
11	平成28年7月27日 (水) 9:30～13:00 (30分休憩)	3	神戸 YWCA 会館	14	許可を求める表現 選択を問う表現	・使役形 ・～ので、～させていただけませんか ・どちら(どっち)／どれ ・～てみます ・漢字(自分の住所を漢字で書く)	後藤範子	

(1)特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【2016年5月30日】

クラス1、クラス2の両クラスに置いて、丁寧な日本語を話すことを目標とし、日本語を構造としてとらえながら、生活に必要な表現を中心にカリキュラムを組んだ。今年度は特に、様々な国籍の学習者が集まったが、和気あいあいとした雰囲気の中、学習が進んだ。来日間もない学習者が多く、学習背景がしっかりしている学習者は短期間で日本語の力を伸ばした。



(2) 目標の達成状況・成果

これまでの蓄積から、今年度は講師の意思疎通がよくはかれ、クラス運営やカリキュラムに関する共通認識が出来上がりがつつあることを感じた。

クラスⅠについては、今年度は来日間もない学習者が多く、レベルとしては揃っていたが、学習背景のある学習者と、そうでない学習者でクラスへの取り組み、日本語力の伸びに差が出た。学習背景がしっかりしている学習者は短期間の学習期間であったが、よく力を伸ばした。一方、しっかりとした学習背景を持たない学習者(5人)は日々の授業についていくのが大変だと判断し、2週目から「フォローアップクラス」というクラスを設け、午後からの45分間、その日に勉強した内容の復習などをして、できるだけクラス内での差が出ないように配慮した。担当した講師、学習者の声から、フォローアップクラスは効果があったと考える。

クラスⅡについては、クラスⅠから4人が抜け、クラスⅡから新たに6人が加わり、17人でクラスを進めた。今年度は生活に必要な漢字を勉強するということで、「買い物で使う漢字」「病院の漢字」などトピックを選び、それと関係がある漢字を優先して学んだ。また、自分の住所を漢字で書きたいという学習者の要望もあり、学習者それぞれの住所の漢字も扱った。学習者は自分の住所を漢字で書けるようになった。

(3) 今後の改善点について

このクラスは日本社会の文化的側面、習慣を学ぶことも目標としている。例えば欠席をせずに、目標を持って勉強することなどであるが、今年度の学習者の中には、休みがちな学習者も散見された。講座全体として、日本語の文化的側面や習慣を学ぶことの重要性をより強く伝え、クラスを運営する必要がある。また、小さな子どもを持つお母さんのために、託児の準備もしていたが、今年度は結果的に利用する学習者はいなかった。本当に託児が必要な人たちに情報が届くような広報が求められている。

＜取組3＞

取組3	取組の名称		多文化共生社会の実現に向けたイベント									
	取組の目標		取組1で「やさしい日本語」の考えたとノウハウを習得した日本人と、取組2「生活者のための日本語講座」を受講した外国人生活者とが交流を図り、その地域での生活に根ざしたイベントを企画、実行した。									
	取組の内容		前年度より引き続き、取組2「生活者のための日本語講座」を受講した外国人生活者が中心となって、地域の祭りや防災訓練など地域のイベントへの参加を企画、準備、実践した。また地域住民は、「やさしい日本語」をツールとして、外国人生活者の参加のために協力した。このことにより、双方が一つの目的のために共同作業を行う過程をし、日常的なふれ合いが持てた。今年度は、これまでの時々の「点」的な活動から、日常的な「線」へ移行する段階に来ていると考え、今までの実績を土台にし、より深く実質的な関わりから共生を目指して、日常生活での親交までに至るような内容にした。地域でのイベントでは、以前から交流を重ねた外国人は神戸YWCAからの呼びかけがなくとも自主的に参加した。 具体的には以下のような内容で実施した。 ①地域の夏祭りへの参加：二宮地区では、市場で夏祭りが行われたので、地域住民と一緒に準備し、参加した。事前に説明を受け、外国人が屋台を担当するための練習を行った。地域住民はやさしい日本語を意識して使い、外国人と交流した。 ②神戸YWCAバザー：外国人は、学習者を中心に、自国の料理やお菓子を作り、学習した日本語を使って、日本人に自国の文化などを説明した。地域住民は、やさしい日本語で外国人と話す経験をした。 ③多文化共生イベント：学習者や地域在住の外国人と地域住民と交流できるようなイベントを企画、実施した。民族衣装やお菓子など多文化理解の入り口となるような内容のイベントを行った。 ④餅つき大会：防災訓練につながるよう、学習者を中心にYWCAから若菜地区在住の外国人に参加を呼びかけ、参加した。 ⑤防災訓練：若菜地区で行われている防災訓練に参加。また、事前に神戸市のシェイクアウト訓練にも参加し、防災への意識付けをした。実際に災害が起こった場合には外国人を含めた地域のつながりが有効だということを認識した。									
	空白地域を含む場合、空白地域での活動											
	□ 取組による体制整備		地域住民と外国人生活者が出会い、協働することで、共生のためのきっかけを作った。実施には、地域コミュニティへ向かい、地域住民の方々の理解と協力を得ることが必要。このつながりを今後にも活かしていきたいと考えている。									
	取組による日本語能力の向上		取り組み2で、生活に必要な日本語を学んだ学習者が、日本人と会話する機会を作った。カジュアルな日本語で断片的にしか話していなかった学習者が、きちんと日本語を学ぶことを通じて、整理された丁寧な日本語で話すことができるようになった。そして、実際に地域の日本人と話す体験から、日本人に通じる日本語が話せるようになり、協働ができることを実感した。これらにより、自信がつき、ひいては日本での生活に溶け込むことができる。地域在住の外国人は同地域の日本人との交流によって、日本人との日本語を使ったコミュニケーションに慣れてきた。									
	参加対象者		日本人、外国人				参加者数120人 (内 外国人35人)				人 (人)	
	広報及び募集方法		中核メンバーが中心となり、地域コミュニティと連携を取り、公募する。神戸YWCAホームページ、Facebook等に掲載。									
	開催時間数		総時間 23.25時間(準備は含まない)				出席 8回					
	主な連携・協働先		中央区役所、地域自治会組織(若菜地区、二宮地区、宮本地区)、神戸市中央区社会福祉協議会、賀川記念館、WORKMATE、神戸外国人救援ネット									
開催場所		二宮地区、若菜地区、宮本地区										
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル			
		14人	4人			4人						
		アメリカ3人、シリア3人、イタリア2人、スペイン1人、ブラジル1人、ナイジェリア1人、パキスタン1人、ペルー1人										

実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	参加者数	取組テーマ	内容			指導者名	補助者名
1	平成28年7月12日 (火) 12:15～13:00	0.75	二宮 地域 福祉 セン ター	10人	二宮地区二宮市場夏祭り練習	ポップコーン作り練習。日本人はやさしい日本語で指導。			櫻井かおり	
2	平成28年7月23日 (土) 16:00～20:30	4.5	二宮 市場	12人	二宮地区二宮市場夏祭り	自分たちでポップコーンを作って配った。日本人はやさしい日本語で外国人と会話。			福井武司 櫻井かおり	小川佐由理
3	平成28年8月17日 (水) 13:30～15:30	2	若菜 地域 福祉 セン ター	5人	若菜地区盆踊り練習	盆踊りの練習。日本人はやさしい日本語で指導。			福井武司	小林麻紀子
4	平成28年8月21日 (日) 16:00～20:00	4	神若 公園	7人	若菜地区盆踊り	盆踊りに参加。地域の中学生とともにジュースを売った。			斎藤明子 櫻井かおり	小林麻紀子
5	平成28年10月10日 (月) 10:00～15:30	5	神戸 YWCA 本館	25人	神戸YWCAバザー	国の料理を作り、「世界の料理」屋台として提供した。二宮地区のポップコーン機を借り、ポップコーン屋台を出した。高校生はやさしい日本語と一緒に接客。			斎藤明子 福井武司 櫻井かおり	小川佐由理 小林麻紀子
6	平成28年12月17日 (土) 11:00～16:00	4	神戸 YWCA 分室	40人	多文化共生イベント	「民族衣装を着てみよう」として、国の衣装、お菓子を持ち寄り、自国文化を紹介した。日本人は日本文化を紹介し、やさしい日本語で会話した。			斎藤明子 福井武司 櫻井かおり	小川佐由理 小林麻紀子
7	平成29年1月15日 (日) 10:30～12:30	2	神若 公園	5人	若菜地区餅つき大会	餅つき大会に参加。餅つきを体験した。日本人はやさしい日本語で指導、交流した。			斎藤明子 福井武司 櫻井かおり	小川佐由理 小林麻紀子
8	平成29年2月12日 (日) 10:00～12:00	2	神若 公園	45人	若菜地区防災訓練	防災訓練を体験した。日本人はやさしい日本語で指導。			福井武司	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第2回 2016年7月23日】

二宮地区二宮市場地域おこしイベントの夏祭りに参加した。地域の人の指導で、ポップコーン作りを事前に練習して、ポップコーンを作り来場者に配った。回を重ねることにより、地域住民である市場関係者はやさしい日本語でコミュニケーションをとることに積極的になってきている。また、協力団体WORK MATEにも声をかけ、地域在住の外国人が自国の料理屋台を出店した。



○取組事例②

【第6回 2016年12月17日】

地域とのつながりをさらに継続的なものにするために、地域の日本人と外国人が、楽しく互いを理解することを考え「民族衣装を着てみよう」というイベントを行った。神戸YWCA分室は距離的には近いが隣の地区になるので、以前からの若菜地区とのつながりが少し広がった形となる。外国人は自国のお菓子や民族衣装を持ち寄り、自分たちの文化について説明した。自国と日本との関係だけでなく、外国人同士が他の国の文化について理解する機会にもなった。参加した地域の日本人の中には高校生もあり、「やさしい日本語講座ミニ講座」を受けた後、すぐに「やさしい日本語」を使って外国人と話すという経験ができた。



○取組事例③

【第8回 2017年2月12日】

地域の防災訓練に参加。AED、消火器の使い方や避難方法について、地域の日本人とともに体験・学習した。日本人が参加した外国人に消火器の使い方を説明したり、途中行われた防災クイズでは外国人がクイズの進行を手伝った。さらに、防災に対する意識を強く持つため、神戸YWCAでも市のシェイクアウト訓練に参加し、災害に備えてどんなことをすればいいか考える機会を持った。本来2月5日に実施の予定であったが、雨天のため順延となり、参加者が大幅に減った。



(2) 目標の達成状況・成果

外国人は、自分も地域の一員であり、地域での生活にどんなことが求められるのか、自分が日本で生活するには、日本語に加えてどんなことを理解すれば暮らしやすくなるのか意識することができた。地域でのイベントや、神戸YWCAのイベントでの地域の日本人との交流では、学習した日本語を使う機会を通して自信がついたという声が上がっていた。外国人への防災訓練参加の呼びかけを地区と地区の間にある商店街で行い、防災への意識付けができた。さらに日常生活での日本人と外国人との関わりの様子から、やさしい日本語の必要性を改めて感じる機会となった。商店街との関係はイベントを実施し、参加者を呼び込むためにはとても有効であると感じている。今後も関係を継続していきたい。

(3) 今後の改善点について

様々な行事を通して地域の人と外国人との交流ができたが、さらに強固で継続的な関係を築くためには、互いの理解をより深めることが必要であろう。また、地域の人たちが神戸YWCAに気軽に足を運び、外国人と交流する機会を作りたいと考え、神戸YWCAで新たに交流イベントを実施したが、一度のイベント参加に終わらず、定期的、継続的に足を運んでもらえるような活動や行事の実施も考えていきたい。餅つき大会については、ノロウィルス対策ということで、今年度は準備段階からの参加ができず、参加時間が短くなった。ノロウィルス対策が来年度以降も継続されるようであれば、このような突発的な事故に関係のない部分で参加できることはないか、地区の方と相談したい。地域の団体との関係をより深め、外国人と日本人との協働作業による共生のための関係性を深めていきたい。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

日本社会は日本語を母語としない外国籍や日本国籍の人たちが共に暮らす、多文化共生社会になってきた。その状況に対し、地域の支援団体(生活相談、医療相談など)、行政の取組(生活支援、自立支援など)やボランティアの日本語教室などは、それぞれ専門性を生かし、対応を図っている。そして、多文化共生社会の実現という同じ目標を持つこれら各団体が、連携・協力し合い、より効果的な支援が行われるよう努力し始めている。しかしながら、日本語を母語としない外国籍や日本国籍の人たちは、依然日本語力の不足、文化的差異などから、日本社会になじめず、生活に必要な情報を得ることが難しく、地域の中でマイノリティとして生活しているケースが多いと言える。

公益財団法人である神戸YWCAは、長年にわたり培ってきた日本語教育のノウハウを生かして、地域の支援団体、行政と共に知恵を出し合い、より効果的な支援ができるよう、過去3年間本事業に携わり、活動を行ってきた。協働をキーワードにした各団体との連携作りから始まり、徐々にその連携を生かした活動の実施をメインとした取り組みの実績を作りつつある。この取り組みを通して、多文化共生社会を実現させるためには、日本語が不自由な人たちにだけ努力すること、すなわち、日本語を上達させ、日本文化を理解してもらうことを求めるのではなく、地域の日本人、行政側の意識も変える必要があると強く実感し、そのために活動してきた。このような活動は往々にして、期間限定、またはある一つのイベントのみの「点」的なものになりがちである。それは継続され「線」的なものにならないければ、容易に消滅してしまいかねない。今年度は、活動を継続が可能なものにし、また、より日常的なレベルに持っていくことを考えたい。この点から、以下のことに取り組みたいと考える。

①過去の活動から出てきた課題を共有し、今後の方針を考えるための会議を定期的に開く。
②①で出された方針に沿って、協働で取り組むための講座、イベントなどを企画し、運営を行う。
③②の活動をリンク、発展させ、外国人と地域住民、および外国人と彼らが直接することになる行政の人々との継続的な関係を構築する。

これにより、神戸YWCA「地域日本語教育実践プロジェクト」は、一過性のもではなく、長期的に継続し、誰もが安心して暮らせる地域社会づくりに貢献するものになると考える。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

これまでの地域住民と外国人住民の共生というテーマで様々な活動に取り組んできた結果、以下の成果が得られた。

①行政、地域、NGO他団体との共通理解が出来上がっているので、活動の目的の共有が容易になっており、活動に取り組みややすくなった。また、地域住民の方との関係が近くなり、イベントへの参加がしやすくなっている。地域住民の中に自らリーダーシップをとって活動し、日常的に外国人住民と交流をしている人が増えている。

②「やさしい日本語」が徐々に広まりを見せ、こちらから講座の実施を持ちかけなくても、外部団体から講座実施の要請を受けるようになった。

③神戸YWCAが核となり、地域や行政、他機関との連携が深まっており、協働でイベントを実施していくという意識が定着してきた。今年度行ったイベントでは、日本人、外国人の双方が、互いの文化を知り、受け入れるという相互理解のためのきっかけになった。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

取組1:「やさしい日本語」の普及活動において、受講者がこれまでの一般の地域住民や日本語ボランティアなどにとどまらず、子ども多文化共生サポーター、小中学校の教諭、大学の教職員、高校生など大きく幅が広がった。以前から「やさしい日本語」に興味を持っていた日本語ボランティア、子ども多文化共生サポーターの人たちは具体的な使い方を知り、これまで「やさしい日本語」を知らなかった小中学校の教諭、大学の教職員、高校生にとっては、新しい知識を得る機会となった。また、講座の開催がこれまでの「やさしい日本語」(2時間)だけではなく、他団体主催のプログラムに組み込まれる形も増えた。そのことに伴い、各講座の目的や主旨に合うよう、講座の時間を1時間半、45分、35分にするなどバリエーションも上げた。

そして、これまでの文化庁のプログラムの取組1として講座を実施してきたが、今年度は過年度の取組1の講座内容を知った他団体(NGO外国人支援ネット、岡山県国際交流協会、和歌山国際交流協会)から講座実施の要請を受けた。これらの講座は外部機関の助成金や予算での主催となるため、報告書には記載できないが、この三回の講座を加えると昨年度の講座よりも回数は増えていることとなる。外部機関主催の講座が増えたということは、これまでの神戸YWCAの普及活動が認められてきているということであり、神戸YWCAが「やさしい日本語」の普及に貢献してきたことを意味するものだと考える。講座の動画をパイロット版としてWeb上にアップした。運営委員会のメンバーにはDVD化したものを配布し、意見を集約しようとしている段階である。

取組2:「基礎日本語クラス」は、今年は来日間もない学習者が多かった。これは昨年度に課題として挙げた点であり、ある程度達成できた。学習者はクラスが終わった後も日本語の勉強を続けたいと思う人が多かった。また、文字学習についても、市販の漢字のテキストの提出順序にとらわれず、生活するために必要な漢字から紹介し、学習者からは好評であった。

取組3:地域での付き合いには、普段の交流が大切であるが、今年も様々なイベントを開催した。そこでは日本人はコミュニケーションのツールとして「やさしい日本語」を使用して外国人に話しかけた。一方外国人は神戸YWCAで身につけた日本語を使い、日本人とコミュニケーションをはかった。そのことで、双方が自信を持ち、地域移住者が在住外国人との距離を縮め、よい関係が築けてきている。

運営委員会、中核メンバーとの共通認識は年々深まっており、それぞれの会議では、有益な意見、アドバイスが得られた。体調不良などで参加できなかったメンバーには後日、電話で意見などを聞き、活動に活かせるようにした。

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

連携機関を通しての周知広報を行った。国際交流協会やボランティア教室、兵庫県ボランティアネットワーク実務者会議等、日本語機関からの広報も効果があった。神戸YWCA学院のSNSページからも呼びかけた。成果は、神戸YWCA学院ニュースター、機関紙、SNS等で発信した。

(6) 改善点、今後の課題について

①現状:数年間に渡るこの事業の継続により、地域住民にとって、外国人は自分とは縁遠い存在ではなく、身近な存在にとらえ、受け入れ、共に暮らしたいという姿勢が見えてきた。そのきっかけとなる「やさしい日本語」は広まりを見せ、徐々に地域に普及してきていると感じられるようになった。また、外国人の方も、学習した日本語を実際に使い、日本で生活するための自信をつかむきっかけとなっている。

②改善点、今後の課題:

取組1:「やさしい日本語」講座への参加者の属性は広まりは見せているものの、最も参加してもらいたい一般住民の参加人数が少ないことは課題である。「やさしい日本語」を全く知らない一般住民の方に2時間枠の講座に来てもらうというのは難しいので、地域団体が主催する催し物などにこちらから出掛け、ミニ講座を実施するチャンスを探したい。また、来年度以降、講座を警察の窓口や子育て支援を行う団体において実施したいと考え、交渉中である。

取組2:「基礎日本語クラス」をボランティア教室の類のように考え、受講する人が散見された。面接試験の際にしっかりとそのことを伝え、対応したい。また、これまでのカリキュラムに加え、場面設定を多く取り入れた内容を取り入れ、より実践的な日本語が学べるよう、カリキュラムにも工夫を加えたい。

取組3:YWCA、地域の団体において様々な交流イベントを実施したが、日本人、外国人双方が一度だけの参加に終わってしまうことも憂慮される。地域在住の日本人と外国人が定期的、継続的に足を運んでもらえるような活動や行事の実施を考えていきたい。

(7) その他参考資料